

# 「伝統的な技術を生かした工業」の指導は どのようにしたらよいだろうか。

足利市立大橋小学校 清水 登

## 1. まえがき

社会科は、社会生活についての正しい理解を深め、国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うものであり、児童の人間形成にとって欠かすことのできない教科である。

新教育課程が実施され、「人間性豊かな児童」をめざして、「自ら考え正しい判断できる力をもつ児童」の育成が必要となり、この目標を達成するためには、「国民として必要とされる基礎的・基本的な内容を重視するとともに、児童の個性や能力に応じた教育が行なわれるようにすること」が、大切である。

学校教育においても、「ゆとりと充実」のある学校生活を送らせなければならないわけであり、今までのような知識の伝達に重きをおいた教育から、生涯教育という考えに基づいた、学び方を学ばせる教育へと、量より質への転換がはからなければならない。

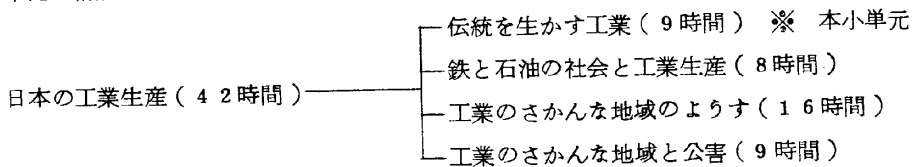
授業においても、これからの授業は、前の時間に学習したことが、つぎの時間をささえ、そこで生きて働くような授業でなければならない。この「ささえるもの」は、取りも直さず、前の時間に学んだ、基礎的・基本的な学習内容であり、理解目標とされたものである。また、「生きて働くもの」は、つまり、前の時間に身につけた能力であり、能力目標とされたものである。

したがって、1時間1時間の目標を分析して、指導内容が確定するわけであるから、まず、単元目標達成に必要な各時間の目標を適格に、構造的に把握することによって、指導内容の精選が可能になり、基礎的・基本的な内容が選定される。

実際の指導にあたっては、児童に主体性を持たせ、先生は援助者の立場にたち、出来るだけ体験を通して事実認識をさせ、自己評価を通して軌道修正をさせながら、形成的評価をし、情意面を大切にしながら学習が進められるならば、個性や能力にあつた、しかも、自ら考え正しく判断できる力をもった児童に育つのではないかと思う。

## 2. 伝統的な技術を生かした工業（9時間）の実践

### (1) 単元の構成



### (2) 小単元の目標

- ① 伝統的な技術を生かした工業について、人々が原料や土地の条件を生かしながら、生産していることを理解させ、生産する人々の技術や製品のもつ意味について考えさせる。

② 写真やスライドおよび分布図などを観察して、その特徴を知り、地図上に記入できるようにする。

### (3) 児童の実態

益子焼はどの家庭でも使用され、知られているが、4月の調査では、行ったことがある児童は、1人で、実際につくった経験のある児童は、1人もなかった。下の写真は、足尾の林間学校のとときに、陶芸教室で、一生懸命に焼物をつくっているところである。



焼きあがって、送られて来た作品を見たときには、みんな歓声をあげて喜んだ。夏休みには、自由研究で焼物の研究をした児童が、10人もいた。9月になって、図工科の時間に、足利焼の絵づけを、今井先生に、学校へ来て実際に教えてもらった。この専門家の指導により深い感銘をうけ、焼物についての、興味・関心が一段とたかまり、日曜日や休日を利用して、焼物の見学に出かける児童が、できた。

### (4) 指導の方針

本単元では、体験がないと、つくる技術や苦心が感得できないので、林間学校のとときに陶器をつくらせたり、図工の時間に足利焼の絵づけをさせた。この経験をもとにして、児童が興味・関心をもって益子焼の資料を集め、グループで協力して学習が進められるように仕向けた。

自ら集めた資料を取捨選択して、伝統的な技術を生かした工業を、立地条件・生産工程・歴史的背景の観点から学習を進め、伝統的な技術を生かした益子焼のよさに気づき、伝統的な技術を守り、発展させるために努力している人々のようすを理解させる。また、輪島の漆器について調べ、伝統的工業の特色や伝統的工業に携わる人々の技術や製品のもつ社会的意味に気づかせ、大切にしていこうとする態度を育てようと試みた。更に、白地図に、全国各地の伝統的工業の産地を記入させることにより、国土理解に役立てようとした。

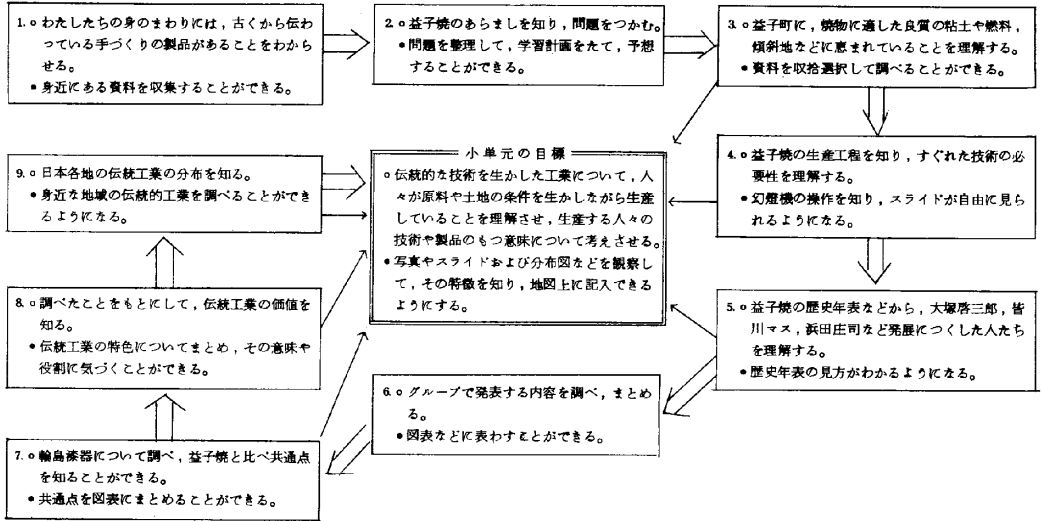
### (5) 指導目標の構造化

新教育課程が実施され、「国民として必要とされる基礎的・基本的内容を重視する……」ことになったが、授業時数の削減にともない、指導内容を精選し、効率の高い指導をしなければならぬ。小単元の目標と各時間の目標が、どのようにかわりあっているかを、構造的にとらえてその相互の関係を把握することによって、各時間の目標が、小単元全体の流れの中で、どのような位置をしめ、どのような働きをなし、それが後の指導に、どのような影響を与えるのかを知ったうえで、指導内容の選定が行なわれなければならない。

また、各時間の目標は、理解目標と能力目標との二面から設定し、小単元の理解目標と能力目標とのかかわりを考え、それぞれのねらいに基づいて指導内容を選び、児童の発達や地域の実状に即した教材を選んで、指導されなければならない。

次の図は、第5学年「伝統的な技術を生かした工業」の小単元の目標と各時間の目標とのかかわりを構造図に示したものである。

第5学年小単元「伝統的な技術を生かした工業」の小単元の目標と、各時間の目標とのかかわり方 〇理解目標 〇能力目標 数字は時間を示す



(5) 指導計画 (総時数, 9時間)

指導過程	ねらい	学習内容及び活動	資料	留意点
つ か む	〇わたしたちの身のまわりに、古くから伝わっている手づくりの製品があることをわからせる。	〇日常使用しているものの中で、手づくりのものに、どんなものがあるか調べ、持ちよって話し合う。 〇グループでまとめて、発表する。 〇足尾焼の経験や、足利焼での絵付けなどの経験をもとに、学習テーマを益子焼に決める。	家庭にある手づくりの品物 足尾焼と足利焼、(自作)	〇事前に家庭にある手づくりの品物を調べ、持ちよるように指示しておく。 〇手づくりで、生活に役立っていることをおさえる。 〇陶器に関心を集め、益子焼に学習テーマをしぼる。
( 2 )	〇益子焼について学習課題をつかみ、予想をたてさせる。	〇益子焼の実物を見ながら、感じたことについて話し合う。 〇どこで、どのようにつくられたか話し合う。 〇益子焼の写真やスライドを見て	益子焼の実物、ポスター、写真、自然や生	〇実物は、大きく、薬を塗らないで、自然に焼いたものにし、さわって感触を調べさせる。 〇足利焼や足尾焼の体験を

指導過程	ねらい	学習内容及び活動	資料	留意点
		学習問題をつくり、予想する。 ○自分たちで集めた資料をもとに学習計画をたてる。	産工程の スライド (自作)	もとに、予想させる。 ○スライドは、あらましがわかる程度にとどめる。
し ら べ る	○益子町の自然条件を調べて、良質の粘土や燃料など自然条件に恵まれていることをわからせる。	○益子町の位置や自然条件を調べて、その特徴に気づく。 ○益子町で焼物づくりの盛んなわけを予想し、発表する。 ○陶土採取場の写真を見て、気づいたことを発表する。 ○登り窯のつくられている土地や燃料のまきについて話し合う。	作業用紙 栃木県地図 スライド (益子町の自然) (自作)	○益子町の近くに、原料となる良質の陶土や、近くの山林から燃料としてのまきが入りやすく、傾斜地が登り窯をつくるのに適していることに気づかせたい。 ○登り窯から出る煙りなどに、注意させる。
(4)	○生産工程を調べて、すぐれた技法やながい経験・修業が必要であることをわからせる。	○生産工程について、足尾の陶芸教室や足利焼の絵づけなどの体験をもとに話し合い、予想をたてる。 ○生産工程を調べる。 ○それぞれの工程において、すぐれた技術の必要性を調べて話し合う。	作業用紙 スライド (生産工程) (自作)	○体験をもとに、それぞれの工程が大変むずかしく、すぐれた技術が必要であることを思い出させる。 ○手づくりのところを強調し、登り窯での焼き方に注意をむけさせる。
	○歴史を調べ、技術を守り発展させたことをわからせる。	○益子焼の歴史年表を見て、気づいたことを発表する。 ○益子焼の発展に、力をつくした人々の業績を調べ話し合う。	益子焼の歴史年表	○大塚啓三郎、皆川マス、浜田庄司などを選びださせるようにする。
た し か め る	○輪島漆器を調べ、伝統工業の価値をわからせる。 ○伝統工業の	○輪島漆器の立地条件や生産工程、歴史などを調べる。 ○益子焼と比べ、共通点を話し合い、伝統工業の価値をたしかめる。 ○伝統工業の意味や役割を、グル	教科書 資料集 作業用紙	○輪島ぬりの生産工程を通して、伝統工業の価値をつかませる。 ○伝統工業のなかに、先人

指導過程	ねらい	学習内容及び活動	資料	留意点
(2)	役割や問題点に気づかせる。	ープでまとめ、発表して話し合いその特色を理解する。		の業績が、引き継がれていることに気づかせる。
ひろげる	○日本各地の伝統工業分布調べをさせる。	○日本の伝統工業の分布のようすを調べ、白地図に記入する。	全国伝統工芸品分布図	○伝統工業が、全国各地に分布していることに気づかせる。
(1)	○身近な地域の伝統的工業を調べさせる。	○足利織物や、桐生織物について調べ、部分的に手づくりが行なわれているものもあることがわかる。	織物、染物の写真	○身近にある、伝統的技術を生かした工業を、大切にすることを心を持つようにする。

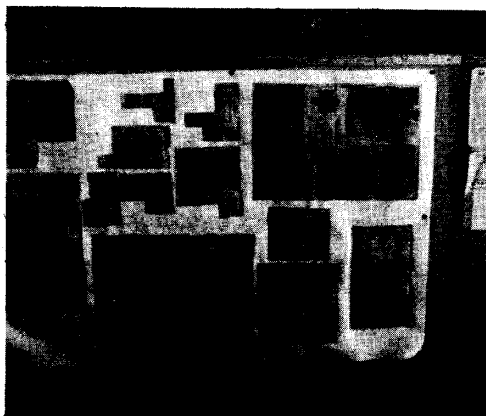
#### (6) 指導過程

小単元を1サイクルと考えて、「つかむ」、「しらべる」、「たしかめる」、「ひろげる」、の4つの過程を設け指導にあたったが、実際には、その前の事前指導ともいうべき、もう1つの段階が非常に大切であることがわかった。

##### ① 事前指導

「つかむ」指導にさきだって、児童がこれから学習する小単元について、基礎となる必要にして十分な知識技能を持っているかどうか、実態調査をする必要がある。その結果、不足している知識技能については、可能な範囲で補習し、学習のベースを定めて、そこから出発させなければならない。自ら学び取る学習においては、このベースをしっかりおさえることが大切である。自転車に乗れない子に、バイクに乗るように仕向けても、子供は自分からは決して乗ろうとしないし、方位のわからない子には、地図指導ができないのと同じである。

伝統的な技術を生かした工業を指導するにあたって、足利織物や桐生銘仙などで指導できな



いか調べたが、資料不足と規模も小さく、生活とのかかわりも少ないので、益子焼を選んだ。ところが、4月の実態調査では、益子の共販センターへ行ったことのある児童は1人だけで、つくったこともなければ、焼いているのも見たことがなかった。そこで足尾焼と絵付けを体験させ、これをベースに学習をすすめることにした。非常に興味・関心を持って焼物の研究が進められた。左の写真は、授業以前に、新聞の切り抜きや、パンフレット

や写真など、児童が集めてくれたものである。

## ② つかむ学習

デューイは、「問題解決学習」を初めは、次の5段階に分けた。①問題を把握する。②仮説を立てる。③資料の収集と検討をする。④仮説を確認する。⑤仮説を検証する。その後、デューイやその他の学者によって、次の3段階に分けられるようになった。①導入段階、②展開段階、③応用ないし総括段階（終末の段階）

この「つかむ学習」は、デューイの分けた導入段階であり、小單元全体の導入である。ここでは、○ 学習に対する興味を高めること ○ 学習の動機づけ ○ 前単元の学習と本単元の学習への仲立ち ○ 学習目標を把握する ○ 問題の把握と問題の焦点化を図る ○ 本単元の学習の準備、などが考えられる。

まず、日常生活の中で、見たり用いたりしている品物の中から、手づくりの品物を探して、そこから、伝統的技術を生かした工業へ学習を進めることが、児童の興味・関心を高めると思った。そこで、調べたことを持ちよって、グループでまとめて、発表し話し合った。下の写真は、その時の様子である。左側の写真は自分の調べたのと、友だちの調べたのが同じだったと



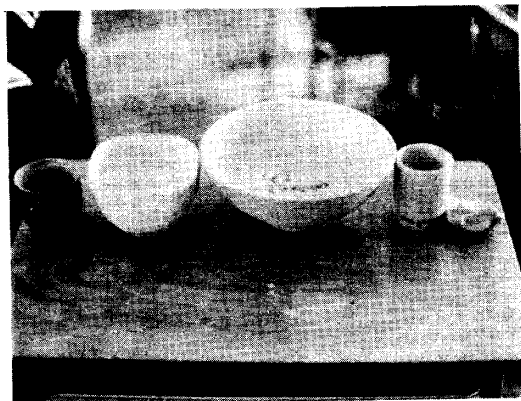
いうことを聞いて、手をたたいて喜んでいるところである。聞いている児童に、白地図に記入させ、「ひろげる学習」での、伝統的工芸品の産地の分布を調べるときの手がかりとした。



話し合いによって、次の時間には、益子焼の学習をしようということにより、資料探しが始まった。学校の図書室、県立図書館、日本旅行会、駅の観光案内所など、あるいは、益子町役場や窯元に電話でたずねたり、日曜日に現地へ行って来た児童もいた。

何人かでグループをつくって調べ、9冊の資料をつくった。複写するときだけ手伝ってやったが、あとは全部児童がつくって、全員に配布した。左の写真がその資料である。

下の写真は、現地へ行った児童が、生産工程の段階がわかるように、いただいてきたものである。



学習の流れは、高さ50cmぐらいの益子焼の実物を見せた。すると、「おお……。」という声が、あちらこちらから聞こえて来た。形が大きかったのと、登り窯でうわぐすりをつけずに、自然に焼いたものだったためであろう。手でさわらせて、その感触も体験させた。

そのあと、益子焼のつぼをつくっているポスターや、登り窯の中で真赤に火がもえている写真をみせ、どんなふうにつくるか

話し合い、益子でとって来たスライドによって、自然のようす、生産工程、参考館、窯業指導所、共販センターなど、これから学習問題をつくるのに必要最小限度の事実認識をさせた。導入段階なので、できるだけ児童の感覚にうったえる。実物、写真、スライドなどを多くした。

つぎに、どんなことが学びたいかということで、個人個人に問題を考えさせた。最初から、グループで考えさせると、勢力の強いものの言いなりになってしまうので、さけたわけである。また、整理も大変むずかしくなり、学習計画もたてにくくなるためである。

最後に、問題を整理して、およその学習計画をたて、作業用紙を配布して、次時の「調べる学習」の準備をして、授業が終わった。児童は、そのあと、社会科作文を書いて帰った。

学習問題は、話し合いにより、次のように整理された。

- 自然のようす  
益子焼に適している自然と、適していない自然について。
- つくるようす  
益子焼にしかない特色  
形をつくってから焼くまで、どのくらいかわかしておくか。  
窯の種類と、その窯が、いつごろ使われていたか。
- 益子焼の歴史  
益子焼は、どのようにして発達したか。  
どのようにして、益子焼はさかえたか。  
益子焼は、いつごろいちばんさかえたか。

学習問題は、この順序に従って、自分たちでつくった資料をもとにして、全児童が調べる。問題をつくったグループは、その問題について特によく調べ、模造紙にまとめ、わかりやすく発表することに決めた。時間配当は、自然のようす1時間、つくるようす1時間、益子の歴史1時間、まとめの時間1時間、たしかめる時間2時間、ひろげる時間1時間ということで、およその学習計画がたった。そこで、作業用紙をあたえて、調べるための準備が終わったわけで

ある。

社会科作文を授業の終わりに、2～3分ぐらいで、簡条書きに書かせることにしている。その授業について、児童が感じたことをありのままに書かせるのである。これは、児童の情意面を知り、次の時間の指導の改善に役立てたいからである。作文用紙は、グリーン、白色、ピンクの三色の用紙を自由にとれるようにしておき、グリーン用の紙には、つまらなかつたことや、いやだつたこと、白色用の紙には、わからなかつたことや、先生に聞きたいこと、ピンク用の紙には、おもしろかつたこと、たのしかつたこと、よかつたことなどを書くように約束してある。

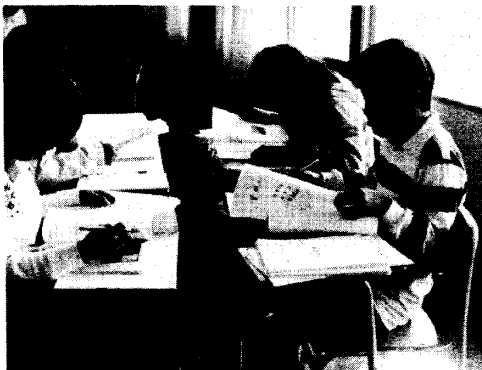
「つかむ過程」での社会科作文は次のようであつた。グリーン用の紙は1枚で、「せつかく何回も手をあげたのに、1回しかさされませんでした。」と、書かれていた。このT君は、ふだんは、おとなしくてあまり手のあがらない子である。白い用紙は、4枚だつた。TN君、「先生の見せたポスターに顔がのつていなかつたのは、なぜですか。」この見せたポスターは、「手づくり」ということを強調するために、手でつぼをつくっているところに焦点をあて、他は、ぼかしてあつた。S君、「スライドをもっと見たいです。」、F子、「スライドを見て、楽しかつたけど、もっと見たかつた。また、自分たちでやる研究みたくのをやりたかつたです。」スライドは、市販ではなく手づくりだつたので、ところどころに、先生の姿も見えたので、興味があつたのかも知れない。残りは全部ピンク用の紙だつた。SY子、「今日の社会科の授業は、とても楽しくできました。そのわけは、意味がよくわかつたからです。」、KT君、「……実さいに先生が、焼物を持って来たりして、おもしろかつた。」、Ki子、「スライドや本物の焼物が見られて楽しかつた。焼物にさわれたから、それも楽しかつた。」、KY君、「みんなの作った資料で勉強できるのがうれしい。」などである。

この社会科作文に書かれた児童の声以上に、学習の指導法を教えてくれる指導書に、私はいまだに会つたことがない。私にとっては、貴重なものである。

### ③ 調べる学習

この段階では、仮説を考え、目的にかなつた追求をする計画をたてて追求する。追求したことを集め吟味し結論を導く。などが考えられる。

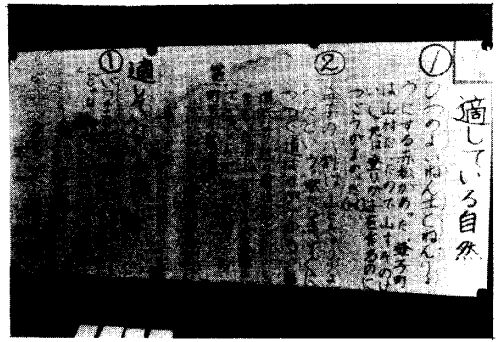
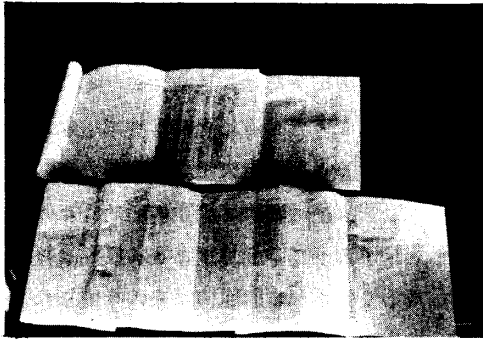
下の写真は調べる学習をしているところである。与えられた資料と自分たちで苦労して集め





た資料との差は、この調べる段階での児童の意気込みの違いとなつて、はっきりと現われてきた。

下の写真は、作業用紙に児童が途中までまとめたものを、とつたものである。模造紙に発表するために、まとめたものが右側の写真である。



下の写真は、発表を聞いている児童の様子である。児童はわりあいリラックスした様子で、発表を聞いているが、どの児童の目も、発表者の方へ引きつけられているのがわかる。手をあげている児童は、質問があるということで、非常に活発に話し合いがなされた。



#### ④ たしかめる学習

追求したことを集め、吟味して結論に導かれたものを、他の事象にあてはめて、結論の正しいことを検証する。

教科書を見て、輪島の漆器について、自然のようす、生産工程・歴史などを調べ、益子焼の場合と比較した。

下の写真は益子焼と輪島の漆器とを比べ

て、模造紙にグループでまとめる作業をしている様子である。

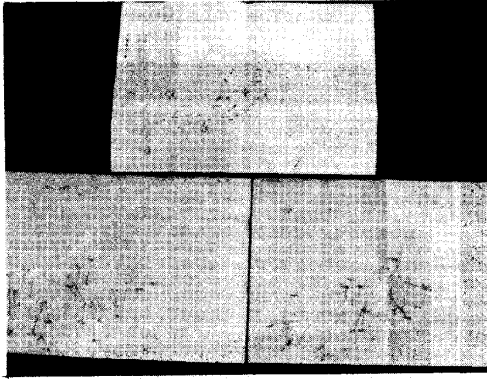
#### ⑤ ひろげる学習

ここでは、これまでに学んだことをもとに、発展教材をとりあつかう。

これまでに学んだ学び方をもとにして、日本の国全体に目を向け、同じような伝統的技術を生かした工業はないかと探す学習である。



ここでは、地理的環境としての我が国の国土についての理解を深め、国土に対する愛情を育てるようにする。



学習の流れは、教科書、資料集、全国伝統工芸品一覧表などをもとにして、焼物、織物その他、の3項目に分け、白地図に記入した。左側の写真が、白地図に記入したものである。

白地図に全部記入させずに、それぞれの白地図に記入させることによって、思わぬ発見をさせることが出来た。焼物の分布図から、広い関東平野には、焼物の産地がないという児童にとっての発見である。授業は終わっても、この新しい問題の解決にせまられ、主体的な活動は読けられている。

もう1つの学習の流れは、焼物の分布の学習と、児童が、学習前に、栗田美術館の焼物の絵はがきを持って来てくれた、鍋島焼や有田焼とが、合体して、栗田美術館へ行こうという働きである。もう何人かの児童は見学してきたようである。

このように、児童の自主的学習は限りなく発展し、尽きる所を知らないのである。

### 3. まとめ

以上の通り、児童の主体性を重んじ、活動をとおして、社会事象をはだで感じさせ、全知・全能をもって、事象を分析、統合、分類、整理して、児童一人ひとりが、自分なりの見方や考え方を持って、友だちと検討、修正をくり返し、協力・援助しあつて、学習がすすめられるような、学習の指導方法を試みた。わかったことは、児童に興味・関心を持たせ、本当に問題をつかませることができれば、児童は主体的に、どんどん学習をすすめることができるということである。

#### 参考文献

- 教育実践の原理（高久清吉） 協同出版
- 教育の英知（ ） 〃
- 創造的学習の理論（佐伯正一） 明治図書
- 創造性開発の学習方式（時実利彦）泰流社
- 創造性開発の総合実践（阪付） 明治図書
- 小学校教育の創造（全小会） 第1公報社
- 学習指導のシステム化（全教研） 東洋館
- 指導課程における評価（教附） 明治図書
- 学習評価の研究（橋本重治） 金子書房
- 新教育評価法総説（ ） 〃
- 最新教育評価法全書（橋本肥田）図書文化
- 新しい授業の創造（筑波大附小） 泰流社
- 地理、その教育（朝倉隆太郎他） 葵書房
- 社会科教材研究の方法（朝倉） 明治図書
- 上田薫社会科教育著作集 〃
- 社会科検証学習入門（鈴木喜代春） 〃
- 社会科検証学習展開（ ） 新光閣
- 社会科検証学習の探究（ ） 明治図書
- 社会科の方法（大塚久雄）岩波新書
- 社会科能力研究入門（山口康助）明治新書
- 社会科指導内容の構造化（ ） 新光閣
- 社会学的方法の規準（デュルケム）岩波書店
- 総合活動の理論と展開（教育大附小）泰流社
- 基礎基本…社会科指導（千住1小）明治図書